

京都山城「宇治茶の郷づくり」構想

1 構想の趣旨

宇治茶は、800年の歴史を有し日本を代表する緑茶ブランド商品として山城地域の重要な宝であり、その振興は、地域の活性化を図る上においても重要です。

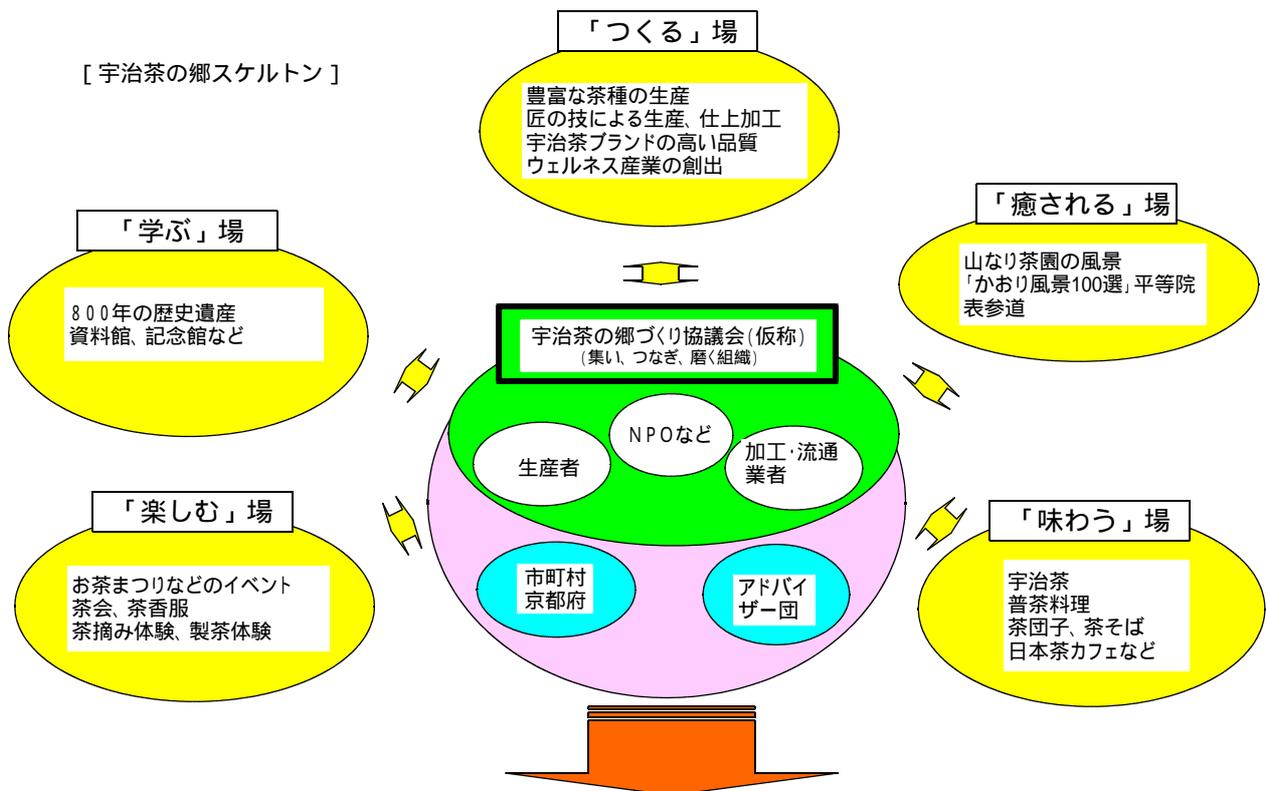
また、山城地域には、日本緑茶発祥の地として、お茶に関わる歴史的な史跡や行事、習慣も多く、日常生活にもお茶の文化が息づいている地域です。

そこで、山城地域に息づくさまざまな宇治茶に関する資源（茶園、施設、歴史、文化、人など）や地域の取組などを、「集い」「つなぎ」「磨く」ことを通じて、宇治茶に感動し、体験できる宇治茶の郷づくりの実現を目指すこととし、この構想を策定します。

< 宇治茶の郷のめざすもの >

[基本コンセプト]

宇治茶を通じた和の文化の継承と「お茶する生活」の実現



2 現状及び課題

< 現 状 >

宇治茶は、約800年前に宇治に栽培が伝わって以来、その気候、風土や都に近い有利性と先人の努力によって、煎茶、玉露の製造技術が発明されるなど、常に先進性と高い技術力によって他産地をリードし、今日まで高いブランド力を誇っている。

都市開発の進展や担い手の不足により山城地域の茶園面積が減少傾向にある。そのような中であって、緑茶の原産地表示の基準化等を契機に宇治茶の増産が求められている。

食生活やライフスタイルの変化の中で、手軽さや健康志向と相まってお茶のペットボトルの消費は増加している一方で、リーフで飲む緑茶の消費が伸び悩んでいる。

山城地域は、お茶に関わる歴史的な史跡や行事、習慣も多く、日常生活にもお茶の文化が息づいている地域であるが、一方で、ライフスタイルの変化や情報発信の弱さなどにより、宇治茶の持つ価値が十分認識されていない状況がある。

< 課 題 >

緑茶の原産地表示の基準化等を契機に、宇治茶の増産が求められており、お茶の生産拡大を推進する必要がある。玉露など高品質な宇治茶の魅力や価値をより発揮させるとともに、煎茶などスケールメリットを生かした茶づくりを推進する。また、宇治茶の成分（カテキン、テアニン等）等を活用したウエルネス産業の創出なども求められている。

府民、NPO、お茶生産者、加工・流通業者等が連携し地域が一体となって、宇治茶の振興やファンづくりなど、宇治茶の郷づくりを推進する組織（集い、つなぎ、磨く組織）づくりが必要である。

歴史的な史跡やお茶に関わる行事、習慣など、山城地域に息づくお茶文化の再発見運動を進めるとともに、地域におけるお茶に関する様々な取組やお茶に親しみ、楽しみ、もてなしなどのお茶の魅力や良さを発信し、お茶を通じて培われてきた宇治茶文化を継承、発展させる必要がある。

宇治茶は飲用としてのPRに止まっており、宇治茶のもつ歴史的、文化的価値や魅力を広く地域の活性化に活用する必要がある。

3 施策の展開方向

「宇治茶を通じた和の文化の継承と『お茶する生活』の実現」を基本コンセプトとして、次の4つのフレームにより施策を展開します。

つくる

(1) お茶の生産拡大とお茶の成分等の活用を推進します。

当面概ね60ha以上の茶園拡大を市町村、関係機関と連携し、積極的に推進するとともに、お茶の成分、効能等を活用したウエルネス産業の創出を目指します。

学ぶ、楽しむ

(2) 歴史と文化の再発見運動の推進と「お茶する生活」の普及に努めます。

宇治茶に関する歴史や文化の再発見運動の推進や宇治茶に関する資源を活用した「感動体験の場」づくりを進めるとともに、日常生活に安らぎを感じる「お茶する生活」の普及に努めます。

つたえる

(3) 宇治茶の郷から情報発信を行います。

山城地域における宇治茶の価値や魅力を宇治茶の郷から情報発信します。

つなぐ

(4) 宇治茶の郷づくりを推進する組織・体制づくりを進めます。

府民、NPO、お茶生産者、加工・流通業者等が連携して、山城地域の宝である宇治茶に関する資源や地域の取組などの力を結集し、それらをつなぎ、磨く組織・体制づくりを進めます。

4 重点施策

(1) お茶の生産拡大とお茶の成分等の活用を推進します。

茶園造成による生産拡大を推進します。

- ・機械化可能な集団茶園の整備を中心に、当面概ね60ha以上の茶園造成を進めます。
- ・製茶工場の再編を支援するとともに、共同製茶工場の大型化・オートメーション（FA）化を進めます。
- ・担い手への茶園集積を推進します。

世界に誇れるお茶づくりと安心・安全な茶生産を進めます。

- ・京都の土壌、品種等を活かした世界に誇れるお茶生産を推進します。
- ・新たな品種開発を推進します。
- ・点滴施肥技術の導入促進など減肥栽培、減化学農薬栽培による安心・安全で環境にも優しい茶生産を推進します。

お茶の成分等を活かしたウエルネス産業の創出を目指します。

- ・お茶の成分（カテキン、テアニンなど）・効能（消臭、抗菌など）等を活かし産・学・公連携によるウエルネス産業の創出を目指します。

(2) 歴史と文化の再発見運動の推進と「お茶する生活」の普及に努めます。

宇治茶の淹れ方教室の開催など「感動体験の場」づくりに努めます。

- ・企業や高校、大学等を対象にした「出前宇治茶の淹れ方教室（仮称）」の取組を推進します。
- ・気軽に宇治茶が飲める「宇治茶カフェ」やお茶を食材とした料理等の普及に努めます。
- ・地域の子どもたちや修学旅行生等にお茶摘みを体験してもらう「宇治茶体験塾（仮称）」など宇治茶に触れて感動体験できる場づくりに努めます。

宇治茶を活用した観光に取り組みます。

- ・史跡や行事、茶畑の美しい景観など山城地域の宝の再発見運動を進めます。
- ・宇治茶の歴史、文化や魅力を体感できる観光コースを設定し、観光関連団体等と連携しながら普及します。

宇治茶の郷づくりの拠点「宇治茶会館（仮称）」の設置を支援します。

- ・宇治茶の魅力や良さを感動体験でき、発信できる拠点となる「宇治茶会館（仮称）」の設置を支援します。

(3) 宇治茶の郷から情報発信を行います。

「宇治茶の郷通信(仮称)」等による情報発信を推進します。

- ・ 宇治茶に関する行催事や地域の取組を紹介する「宇治茶の郷通信(仮称)」を発行するとともに、ホームページ等により広く情報発信に努めます。
- ・ お茶に関する各種イベントなどを通じて宇治茶の価値や魅力の発信に努めます。

「宇治茶週間」の制定を検討します。

- ・ 「宇治茶週間」の制定を検討し、宇治茶を感動体験できるさまざまな取組の推進に努めます。

(4) 宇治茶の郷づくりを推進する組織・体制づくりを進めます。

「宇治茶の郷づくり協議会(仮称)」の組織づくりを進めます。

- ・ 府民、NPO、お茶生産者、加工・流通業者等が連携・結集した宇治茶の郷づくりを推進するための横断的な組織づくりを進めます。

～ 最後に ～

宇治茶を山城地域の「宝」として、「広めよう宇治茶の魅力、つなごう人と地域の取組、進めよう宇治茶の郷づくり」を合言葉に、府民や茶業関係団体、市町村と連携しながら、山城地域において「宇治茶の郷づくり構想」の具体化に向けた取組を推進していきます。

緑茶の原産地表示の基準化等

食品表示偽装事件等を契機に食品の原産地等表示に対する消費者の関心が高まったことに対応し、茶の適正な表示を推進するため、社団法人日本茶業中央会は、「緑茶の表示基準」を一部改正(H16.9.14)し、業界の自主的な統一基準を定めた。

これに伴い、社団法人京都府茶業会議所において次のとおり宇治茶の定義が定められた。

宇治茶の定義

「宇治茶は、歴史・文化・地理・気象等総合的な見地に鑑み、宇治茶として、ともに発展してきた当該産地である京都・奈良・滋賀・三重の四府県産茶で、京都府業者が府内で仕上げ加工したものである。」

ウエルネス

健康な心・体・社会生活を得て、単なる健康にとどまらず、積極的・創造的な健康増進を目的とする生活行動の総称。ウエルネス産業とは、ライフサイエンス（生命科学）、バイオ、医療、ヘルスケア（健康管理）等幅広い関連部門を包括する産業分野をいう。

（出典：「平成17年度京都ウエルネス産業コンソーシアム産学公連携グループ共同研究支援事業の公募開始について」ホームページ（<http://www.ki21.jp/information/wellness/>））

カテキン

緑茶の中に多く含まれている成分で、抗酸化作用を有するポリフェノールの一種である。茶葉で急須で入れた場合、湯のみ一杯には80mgほどのカテキンが含まれている。

抗酸化、抗ガン、コレステロール抑制、血圧降下、血糖抑制、抗菌、抗アレルギーなどの効果があるといわれている。

（出典：お茶でヘルシーライフ（世界緑茶協会））

テアニン

茶葉中に最も高含量に含まれるアミノ酸の一種。うま味物質の一つ。品質のよいものに多い。

血圧降下、脳・神経機能調節などの効果があるといわれている。

（出典：茶の科学用語辞典（日本茶業技術協会））

共同製茶工場の大型化・オートメーション（FA）化

「FA」とは、「ファクトリー・オートメーション（工場の完全自動化）」の略。府内の茶産地では、製茶作業の自動化により製造効率を向上させるとともに、製品の均質化を図るため、オートメーション化した茶工場の建設が進んでいる。その地域において最も適したお茶の製造に係る技術等を記憶させたコンピューターで完全制御されていることから、労力の軽減に大きく貢献し、農家の皆様から喜ばれている。また、余った労力を茶園管理に振り向けることができるなど、FA茶工場は宇治茶の産地の一層の発展に貢献している。

（出典：新京都府農林水産振興構想「ふるさとビジョン」（平成14年1月））

参 考

< 検討委員名簿 >

氏 名	所 属 等
山 口 繁 雄 (座長)	(株) 地域計画建築研究所取締役
小 澤 成 介	前日本茶インストラクター協会京都府支部長
寺 本 益 英	関西学院大学経済学部助教授
橋 本 素 子	歴史研究者
松 本 知 毅	(社) 京都府茶業会議所事務局長
米 田 泰 子	京都ノートルダム女子大学人間文化学部教授

< 委員会開催経過 >

回数	開 催 日	テ - マ
第 1 回	平成 1 7 年 7 月 1 9 日	宇治茶に関する現状及び各委員の宇治茶に対する想いについて
第 2 回	平成 1 7 年 8 月 3 日	宇治茶の郷のイメージ及び宇治茶を活かした地域活性化について
第 3 回	平成 1 7 年 8 月 3 0 日	宇治茶の郷づくりの施策の基本フレーム及び構想の考え方について
第 4 回	平成 1 8 年 2 月 2 2 日	京都山城「宇治茶の郷づくり構想」(案)について